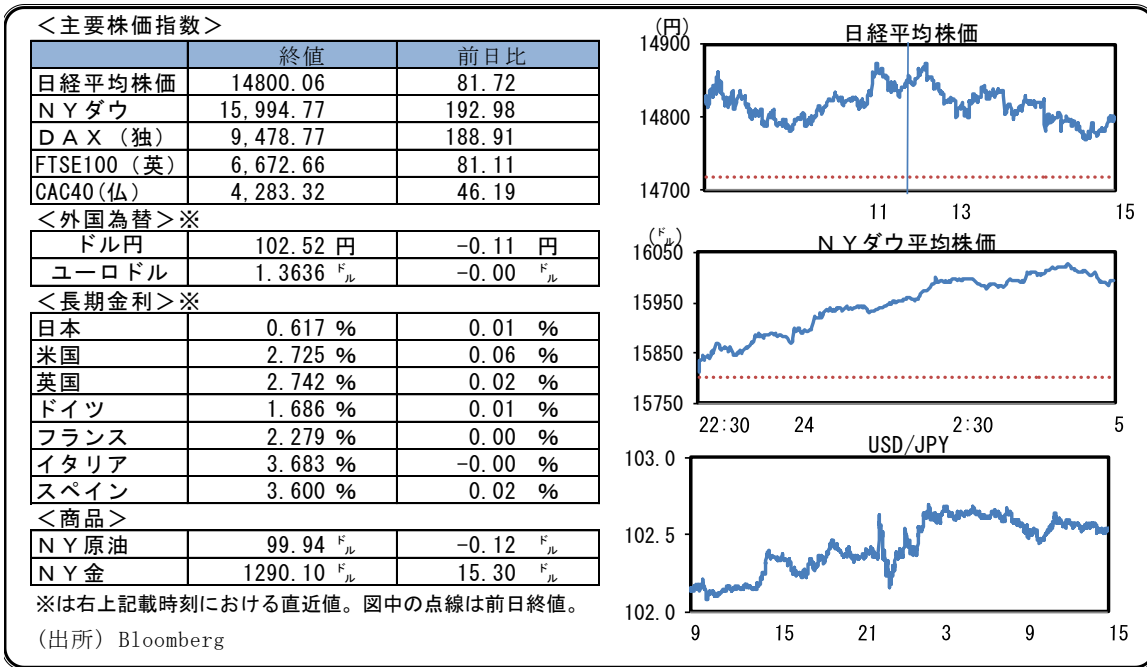


15:04 現在



【海外株式市場・経済指標他】 ～波乱無く通過～

- ・ NYダウ平均株価は前日比+192.98ドルの15994.77ドルで取引を終了。議会証言を波乱無く通過しリスク選好回復。欧州株は独DAXの2%上昇を筆頭に英、仏、伊、西が軒並み1%超上昇。
- ・ イエレン議長の議会証言は予想どおり、従来どおりの見解が踏襲された。一部には「議長という立場上、これまでのようなハト派発言は控えられる」との観測もあったが、タカ派寄り（正確には中立寄り）に傾斜した様子は窺えなかった。主な主張は以下のとおり。

「現在実施中の資産購入プログラム中に失業率は低下してきたが、完全な状態には程遠い」

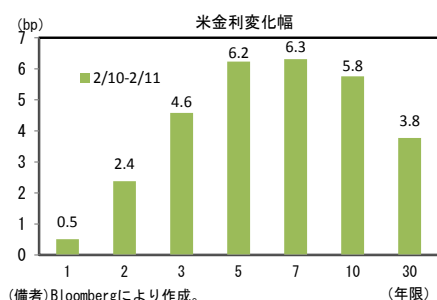
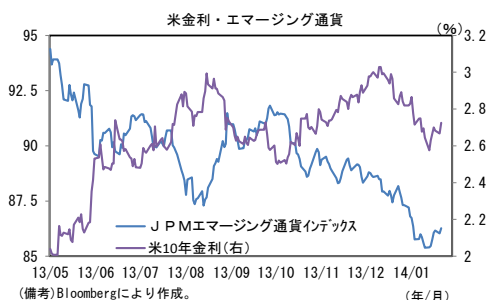
「失業率のみでは、労働市場を正確に把握することはできない」

「現在の国際金融市場の不安定さを注視している。それが米国経済の先行きに著しいリスクになるとはみていないが、もちろん、今後も注視していく」

「最近の物価の軟化は、原油価格や非原油製品の輸入価格下落など一時的な要因を反映しているように見える」

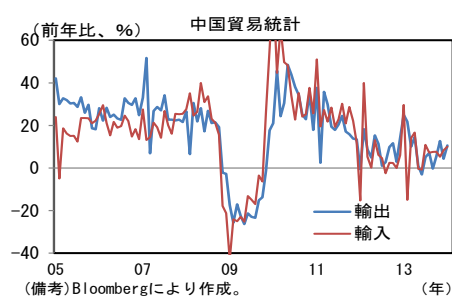
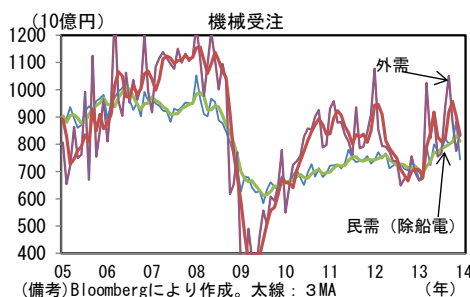
【外国為替相場・債券市場】～そもそもTaperingだから新興国通貨安なのか？～

- ・11日の海外時間はJPY全面安。USD/JPYは欧米株ラリーの中で102.50を回復。EUR、CHF、GBPが弱かった一方、AUD、TRY、ZARなど資源・新興国通貨は米金利が上昇するなか大きく反発。因みに「Tapering→米金利上昇→新興国通貨売り」といった単純なトレードは昨年12月頃から観測されていない。
- ・米10年金利は+5.8bpの2.725%。イエレン議長の議会証言を受けて上昇を開始、米現物株の強さも手伝い一時2.73%に到達。カーブ上では5年ゾーンの上昇が目立った。他方、欧州債市場は米金利上昇に追随することなく全般的に小動き。入札を通過したギリシャ国債（▲21.0bp）の堅調さが目立った以外に特段の動きは無かった。SMP不胎化オペは全額（1755億ユーロ）を吸収。



【国内株式市場・経済指標他】～機械受注：モメンタム鈍化～

- ・日経平均株価は前日比+81.72円の14800.06円で取引を終了。欧米株高・円安を受けて買い戻し。
- ・12月コア機械受注は前月比▲15.7%と市場予想（▲4.1%）を下回った。前月までの高い伸びの反動もあるが、それを考慮しても弱めの印象だ。製造業、非製造業がそれぞれ▲17.2%、▲17.3%減少（相変わらず季節調整が粗い）。10-12月期を通じてみれば年率+6.0%と3四半期連続のプラスを達成しているが、モメンタムは明確に鈍化している。1-3月期見通しは前期比▲2.9%と4月以降の国内景気に対する警戒感を窺わせる内容になっている。一方、このところ軟調だった外需は前月比+8.6%と3ヶ月ぶりに増加し、下げ止まりの兆し。3Qは▲9.3%と不振に終わったが、4Qは+12.6%と明確な反発が見込まれている。
- ・1月中国貿易統計によると輸出は前年比+10.6%、輸入は+10.0%とそれぞれ前月（+4.3%、+8.3%）から加速。市場予想（+0.1%、4.0%）も上回った。しかしながら、PMIから発せられたメッセージとは輸出入共に異なっており、解釈に窮する。①カレンダー要因（春節）、②偽装輸出による歪みから前年比での基調が読みづらいこと、これらの理由から単月実績での判断が難しいのが正直なところ。



【注目点】～やっぱり「強い雇用統計」が欲しい～

- ・先週後半からグローバルリスクオフのアンワインドが進行中。雇用統計は「迷宮入り」だったが、その他米経済指標にネガティブサプライズはなく、イエレン議長の議会証言も無事通過したことでリスク選好が回復。直近ボトム（2/4）からS&P500は約5%、日本株は約6%、USD/JPYも100.80から102.50近傍まで戻した。だが、米指標のネガティブサプライズに対する警戒は払拭されていないとみられ、当面、投資家は慎重なポジションメイクを選択する公算が大きい。日米株、USD/JPYについて上値追いには慎重になるだろう。係る状況下、昨年末のような「強いリスク選好」を復活させるには「強い雇用統計」が必要。昨年来高値更新には「NFP20万人」を最低一度はクリアすることが条件になるのではないかと。